

保育所 公表日 R7.3.1

作成者:施設長 江淵 武雄

※ 今年度のえぶち保育園の保育・教育全般を総合的に評価し、次年度の保育計画に生かせる方向で記入する。

・ A、B、C、Dの4段階評価です。該当する欄に○を付けてください。

項目毎ごとに意見・改善策があれば記述する。

項目

A:たいへんよい
 B:よい
 C:一部検討を要する
 D:改善を要する

◎保育の計画の編成と実施に関する評価

項目	内容					意見・改善策
		A	B	C	D	
保育目標について	(1)保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。		○			職員の入れ替わりに伴い、改めて園の保育について今までは違った、別の視点から考える機会となった。 疑問や課題点について、改善に向け日々話し合い、週末会議等で共有を図った。また、保育士自己評価を行い面談等の時間を設け、保育の目標や振り返りを行った。 次年度はさらに丁寧に園の目標について職員と考えを深め、園全体で質の高い保育に向け動いていきたい。
	(2)目標は、各施設や地域の特色を生かしているか。		○			
	(3)目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。		○			
	(4)目標は、前年度の反省を生かしているか。		○			
	(5)目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。			○		
保育について	(1)指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。		○			0～2歳児は一人ひとりの思いを丁寧に受け止め、限られた物的、人的環境の中でも人権に配慮した保育を行った。 3～5歳児は各クラスの特色を大切にしながらも、改めて心を育む教育について子どもたちと考え、伝えていくことを大切に、5歳児の言動に大きく変化が見られた。 配慮児に対しては職員間での共有を密に図り、クラス間問わず連携した対応が出来た。 次年度はより良い保育のために、園全体で保育について共有を深め具体化していきたい。
	(2)保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。		○			
	(3)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。			○		
	(4)素材・用具を適切に活用しているか。			○		
	(5)評価結果を基に、保育の改善に努めているか。			○		
日時程	(1)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよいか。		○			基本的にはできているが、更に物的、人的環境を考えた上で、固定概念にとらわれることなく、新しく検討したい。
行事について	(1)行事の種類や実施回数は適切か。		○			昨年度より、子どもにとって負担なく、楽しみながら成長できる保護者参加行事として、親子フェスティバル、お楽しみ会を開催している。 また、前年度同様に全学年保育参観、個人面談も行き、英語や誕生会の見学も3～5歳児は自由参観とし日々の成長を気軽に見学できるよう努めている。 今年度新たに0、1歳児の親子ピクニックや2歳児クラスのお楽しみ会への参加も加えた。 その他にも季節の行事やクッキング、SDGs等も行い、学びの多い時間となるよう努めている。すべてを保護者参観にできない分、園内に活動の様子を写真にて掲示し様子を伝えている。 SDGSや食育も毎月行いながら【学ぶ行事】となるよう努めた。 アンケート結果をもとに、次年度更に改善に努めたい。
	(2)行事のねらいを計画や実施に十分生かしている		○			
	(3)乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。		○			
	(4)行事の振り返りを計画や実施に十分生かしているか。					
	(5)保護者の願いや意見を取り入れているか。		○			

◎保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
経営・組織	分掌体制	(1)能率的、合理的な運営組織になっているか。		○			適材適所の人材配置とし、人員数も基準より厚く配置している。
		(2)職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。		○			次年度は職員それぞれの力を十分に発揮できるよう、得意分野を活かし互いに補い合いながら更に協力、連携していきたい。
		(3)職員の配置は適材・適所か。		○			
		(4)係や仕事の分担・割り当ては適切か。		○			
	運営	(1)各種会議を適切かつ効率的に進めているか。		○			園の会議は午睡の場を利用して行っているが、本園と分園全体での会議に参加できない職員も多い為、検討していきたい。
		(2)職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、惜しむことなく施設の運営に関わっているか。		○			また、一度の話し合いでの充実度と効率化を高めるために引き続き努めたい。
		(3)打合せ回数、時間、内容は適切か。		○			法人全体の会議は効率化と充実度を上げるために参加職員全体で意識し、改善していきたい。
	年齢別クラス経営	(1)年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。			○		年度後半に姉妹園との交流や計画的に園内にて異年齢児交流を行った。フンフロアの園舎の都合上、常に異年齢児保育を行っているが、子どもの声や生活音が弊害となる場面があったため、クラス間で活動内容等をしっかりと共有し、密に連携を取れるようにしていきたい。
		(2)年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか。			○		また、次年度は0～5歳児までのクラス全体が連携し合い、6年間という長い見通しをしっかりと考えた上での丁寧な連続性のある保育教育を展開できるよう、新たに意識して取り組みたい。
		(3)年齢別・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。			○		
		(4)同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。			○		
		(5)意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。			○		
(6)評価、資料(諸記録)を集積しているか。				○			
保健安全指導	(1)年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。		○			保健、安全関係については、適宜タイミング通り実施している。	
	(2)避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。		○			次年度は日々の生活の中でも職員が気づいたタイミングや子どもの気づきに応じて、丁寧に指導して行けるよう園全体として心がけていきたい。	
	(3)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。		○				
	(4)乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。			○			
研究・研修	所内研究	(1)研究主題は、保育目標の具現化につながるものであるか。			○		午睡の場や毎週末の会議の場を利用し、社会人マナーについて、保育やその他の課題点など研修として話し合いを行ったり、外部研修の報告等を行っている。
		(2)所内研修の計画・運営は適切か。			○		また、救急対応研修も行い、緊急時に備えられるよう努めている。
	所外研究・研修	(3)研究の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。			○		今後は質の向上や地域社会との連携を含め、具体的な研修テーマを設け全職員で検討していきたい。
		(4)研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか。			○		
	所外研究・研修	(1)各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか。			○		年間120回ほど実施し、可能な限り研修には参加している。
		(2)各種研究会、研修会、講習会での内容を所内に還元しているか。			○		外部研修の報告を更に職員で共有し、保育に活かせるよう努めたい。

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
情報について	(1)乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。			○		個人情報保護規定を設定し取り扱っている。 書類及び記録等の個人情報内容は事務室や鍵付きの棚、部屋等での保管となっている。 面談では個室やパーテーションを使用し対応しているが、日々の降園時の口頭伝達時には狭い環境下の中でどのように配慮すべきか検討していきたい。
	(2)公文書收受、発送、処理を適切に行っているか。		○			
	(3)各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。		○			
施設・設備	(1)施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。		○			安全点検リストを基に実施している。今年度は室内の玩具を更に子どもに取りやすいよう棚を増やし整理整頓に努めた。 不審者対応訓練を年1回行い、今年度は訓練前後に職員全員で各園舎の対策について入念に検討を重ねた。 保護者への掲示物に関しては新しい物には目印をつけ、口頭でも声を掛ける等見てもらえる工夫を行い、職員には共通PC内での共有や会議等での重要ヶ所の伝達を行い、周知の徹底を行った。
	(2)遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管しているか。		○			
	(3)不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。		○			
	(4)掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。		○			
出納・経理	(1)各種会計を適正かつ適切に処理しているか。		○			適正、適切に処理を行っている。
開設された保育所づくり	(1)他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか。		○			姉妹園のえぶちにしや園・えがお園と連携を取り法人内で同学年交流を行っている。 また、5歳児に関しては接続カリキュラムを通して近隣小学校との交流を深めたり、近隣保育園との交流や公開保育への参加を通じて就学を見据えた年齢の子どもへの保育、教育への共通理解を深めた。 園内でも異年齢児同士で交流する機会を設け、担任とは異なる視点からの保育への気づきを大切に、日々の保育教育に活かすことができた。
	(2)他施設等の幼児児童生徒と触れ合う中で、(乳)幼児が楽しく過ごし充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか。			○		
	(3)指導者同志が、打合せや事前研修・合同研修を行い、互いの保育・教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図っているか。			○		
	(4)参観や保育・授業等に参加するなどして、幼稚園・小学校の教育を理解しているか。		○			
	(5)日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。			○		
家庭や社会との地域連携	(1)参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日等を設定しているか。		○			月1回地域の高齢者との異世代交流や西谷商店街のご協力のもとハロウィン会を実施している。今年度は地域の方を園行事のお楽しみ会や卒園式に招待した。 戸外活動の際には積極的に地域の方に挨拶をする等心掛け、地域支援連絡会に参加し近隣施設や民生委員等の顔見知りの関係性作りを行い、園の活動を知っていただけのような努めた。 参観日以外にも英語、誕生会など保護者の方が見学する機会を設け、集団での子どもたちの姿を共有することができた。
	(2)保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。			○		
	(3)(乳)幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。			○		
	(4)地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。			○		

項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
開 か れ た 支 援 の 保 育 推 進 所 づ く り	子 育 支 援	(1)地域の子育てセンターとして、園庭や中庭、保育室等を開放しているか。			○		当園では園庭開放の代わりに保育園体験とし、交流保育を行っている。 その他にも園行事に参加できる機会を設け、今年度は複数名からの問い合わせで実施できた。 園見学対応の際には、近隣の有益な情報や子育て相談含め、育児支援の場にもなるよう努めている。 次年度は一時保育受け入れや地域との交流保育をより充実できるよう、更なる工夫や内容検討を行いたい。 在園児の保護者支援や子育て相談については、降園時の保護者とのやり取りの中や、内容によっては面談の場を設けるなどして適宜行っている。 専門機関との連携には力を入れており、実際に来園してもらったり、園職員が施設見学や研修に参加し、必要な情報を保護者に伝えている。
		(2)地域に住む子どもどうし、あるいは親子が一緒に遊ぶことができるような場の設定を行っているか。			○		
		(3)「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。			○		
		(4)職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。			○		
		(5)医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。		○			
情 報 の 発 信		(1)保育所だより・クラス通信、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。		○			HP上に各種おたよりを発信し、その他にも必要書類をダウンロードできるようにしている。 地域に向けては、子育て支援情報誌への情報提供や、小学校へのあつたか食堂の周知や地区センターのHPや掲示物での発信を行っている。 地域支援連絡会でも同様に、園行事や活動内容を口頭やチラシの配布で周知を行っている。
		(2)行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか。		○			
		(1)第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。		○			
外 部 評 価		(2)地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。			○		横浜市の監査や第三者評価での内容を受け、更なる改善に向けて園運営や、保育教育に反映させている。 保護者や地域からの意見に関してはアンケートや会話の中での意見を基に改善、反映できるよう努めている。
	次 年 度 へ 向 け て の 考 察	<p>今年度は職員の大きな入れ替えに伴い、子どもや保護者との関係性を築くことを最優先し、より良い保育とは何かを職員一人ひとりが考え、話し合いを重ねながら互いに協力し合い保育を行うことができた。</p> <p>保育に邁進する日々の中で、Googleアンケート導入や遊び環境検討、親子ピクニック企画など、新しいことへの取り組みや園庭環境の改善が年度の後半以降にようやく動き出す形となったため、次年度も引き続き環境改善等にも目を向けていきたい。そのためにも、園内研修や会議の充実化を図り、学びを深めたい。</p> <p>また、姉妹園であるえぶちにしや園、えがお園と連携しながらも、次年度はえぶち保育園ならではの良さを職員で再認識できる機会を増やし、園の環境下ならではの保育、保護者支援、地域支援とは何か、今後新たにどのようなことができるか等含め、職員全員で検討していきたい。</p> <p>次年度も固定概念に縛られることなく、自由な発想を大切に職員一人ひとりが十分に力を発揮し、あたたかい笑顔あふれる園にしていきたい。</p>					